

2025年度のスタートにあたり、今日は皆さんに、25個のメッセージを送りたい。

第1話 Be curious : 好奇心を持つ

皆さんは、小学何年生になった？8、9、11、12年生のはず。高3は、小学校2周目の最高学年。私は、小学50年生になった。自分がまだ小学生であるとすれば、何年生か数える。これを「**小学生カウント**」と私は呼び、毎年春に実践している。小学生のような旺盛な好奇心と行動力を、失わないでいるために。「小学1年生」という雑誌がある。私は50年前の読者だが、今年で創刊100周年。最初に読んでいたピカピカの1年生は、今や小学100年生の105歳。

往々にして、人は年齢を重ねるごとに、純粋な好奇心ではなく、先々の目標を重視して行動するようになる。専門的にいえば、curiosity drivenではなく、mission orientedで動くようになる。例えば、小学校では中学受験、中学校では高校受験、高校では大学受験、大学では就職活動、というように。もちろん、次の段階に向けて準備、対策していくことは重要だ。しかし一方で、今この瞬間を、今日この日を、おろそかにしてはいないか。**carpe diem (カルペ・ディエム)**という、ラテン語の言葉がある。ホラティウスの詩などに出てくる。その日をつかめ、今を生きよ、という意味。

先々の目標を頭に置きつつも、小学生のような好奇心や行動力を忘れず、一日一日をしっかりとつかんで、充実したものにしてほしい。新しい教科書、新しい先生、新しい友達に、大いに好奇心の目を輝かせてほしい。(なお、マナーの面では、大人の振る舞いを。)

第2話 「戦争のない星を作るのは君らの仕事です」(木島タロー作詞「校長センセ宇宙人説」より引用)

今年は戦後80年。80年前、ここも、今のガザとかウクライナと同じ状況だった。8月2日の水戸空襲で校舎は全焼。一帯は廃墟となった。水戸空襲で、本校の生徒何人亡くなったか知っているか？4名。7割の生徒、5割の職員が家を焼かれた。水戸駅から本校に向かう歩道の脇に、お地蔵さんがあるのを知っているか？どんないわれがあるか、知っているか？この町内の戦争犠牲者の霊を鎮めるために建てられ、お参りになった人が長生きできることを願って「**延命地蔵**」と名づけられた。今や、ほとんど誰も気にもとめていない。戦争の記憶は風化していると言わざるを得ない。

本校は校歌から誤解されることも多いが、本校の生徒こそ、平和を愛し、平和を守り、平和を実現する人になってほしい。そして、その第一歩として、自分の心を穏やかに、クラスなど身近な世界を安心・安全で居心地の良い空間にしてほしい。**Peaceful mind, peaceful world.**

第3話 「参加にとどまらず、参画を」

今年で、2大伝統行事、学苑祭、歩く会が共に77回目を迎える。76年前に始まり、76年後は2101年。22世紀の幕開け。二大行事が、さらに発展していけるよう、単に「参加」するだけでなく、「参画」してほしい。計画や準備、運営、そして次の代への引き継ぎまで関わってほしい。他の行事も含め、「ゲスト」ではなく、「ホスト」として、「消費者」ではなく「創り手」として、大いに盛り上げてほしい。

第4話 「多様性こそ、強み」

今から75年前の1950年に、本校に初めて女子が入学してきた。今年、共学化75周年。本校が共学になると知った生徒や卒業生たちが、「本校の70年の歴史と伝統を汚すものだ」と言って、猛反対。そんな中、女子が入学してきた。402名の1年生のうち、たった二人。今、この体育館に生徒が約600名いるが、その倍の1215名の全校生徒のうち、たった二人。「ほんとの学問を男性と一緒にしっかりと学びたい」。そう願い、勇気を持って飛び込んできた二人の女子生徒から、共学校としての本校の歴史は

始まった。そして共学化 75 年の今年、中高の新生の 48%が女子となった。

また、本校には、性別だけではなく、ものの見方・考え方、趣味や特技などが異なる、多様な生徒が通ってきている。「多様性」こそ、本校の強み。

なお、今日、クラス替えがあって、「ガチャ外れた」とがっかりしている人もいるかもしれない。でも、人との出会いは、偶然だからこそ、面白いし、思わぬ成長にもつながる。そもそも、「この人と離れたくない」と思っていた友人や先生との出会いも、最初はガチャだったのではないか。この春、多様な個性との新たな出会いを喜び、大切にしてほしい。

第5話 「ベイビーステップで行こう」

この時期、多くの学校や職場で「スタートダッシュで行こう」と言われているかもしれないが、私はむしろ「ベイビーステップで行こう」と言いたい。赤ちゃんのように、ゆっくり一歩ずつ進んでほしい。準備運動、ウォームアップなしにいきなりダッシュするのは、障害のもと。この時期、新しい環境に適応しようと、アドレナリンが大量に出て、知らず知らずに疲れてくる。しっかり休養と栄養をとって、焦らず、徐々に慣れていってほしい。

そして、悩みや不安があれば、遠慮なく相談を。相談しても解決しないこともあるが、少なくとも、「相談の場数」にはなる、「相談力」を高める機会になる。

なお、私は「学苑祭ダッシュ」という言葉を使っているが、適当に言っているのではない。人が新しい環境に適応するには、2、3か月はかかる、と言われる。4月・5月の全日ホームルーム、クラスマッチを経て、6月の学苑祭が終わる頃には、環境にすっかりなじみ、十分ウォームアップできている、そこから各自の目標に向かってダッシュしてほしい、ということ。

第6話 「オン・オフ問わず、至誠一貫」

面と向かって、あるいは聞こえよがしに他者を悪く言わないことはもちろん、ネット上に他者の悪口や個人情報を書き込んだり、画像を無断であげたりしない。そんなことをする人は、裏表があって、「至誠一貫」しない、不誠実な人。匿名や鍵付きにしているから、グループ内だからといっても、発信者は特定されてしまう。遠回しに表現したり、イニシャルや隠語で書き込んだりしても、対象者はわかってしまう。削除しても、復元され得る。自分が言われて嫌なことは言わない、されて嫌なことはしない。オンライン・オフラインを問わず、「至誠」を貫こう。

第7話 「Be prepared. 備えよ、常に」

いつも伝えている言葉だが、特にこの時期は、交通安全に、備えよ、常に。ヘルメットは、目に見える備え。昨年度の調査では、ヘルメットの着用率は37.7%。自転車に乗る際は、必ずヘルメットをかぶるよう、重ねて願います。皆さんの体、皆さんの頭は、皆さんだけのものではない。ヘルメットでしっかり守ってほしい。

また、時間にゆとりを持つことも「備え」のうち。「春眠暁を覚えず」で、寝坊して、慌てて学校に向かって、事故にあう。そんなことにならないよう、ゆとりを持って登校してほしい。

以上、時間がなくなり、決め台詞も言ってしまったので、残りの18は今年度、順次話をしていく。

今日聞いた7つのメッセージを頭に置き、令和7年度を自分史上最高の年にしてほしい。